



杉退教・さくら会 たより

杉並区退職教職員の会（さくら会）

杉並支部HP <http://tokyousosuginami.web.fc2.com>

〒167-0031 杉並区本天沼 1-2-19 都教組杉並支部内 Tel 3399-8719 Fax 3399-3855

2021年

明けましておめでとうございます



「朝焼けの燕岳」 撮影：椎野友夫（元神明中） *これ以上の晴天は望めない朝。
雪面が淡くマゼンタに輝いています。北アルプスの女王の名に恥じない秀麗な姿です。T

年頭所感

長谷川 元昭（元松ノ木小）

新しい年です。でも「コロナの年」が続きます。「穏やかな日」が来るのを切望しています。

先日『ハンデミックの多発は、資本主義の利潤第一主義のもとでの「物質代謝の錯乱」——自然環境の破壊がもたらしたものである」という点で、地球規模での気候変動と同様』という言葉を、ある文章で読みました。目からウロコでした。

「今年の言葉」は『コロナ』でキマリですが、『漢字』の『密』はっです。私なら『衰』です。自分の身体的退化と政治の退廃の象徴として、いずれにせよ不健康ですね。

でも、子どもたちは『笑』を選んでいきます。『楽』『新』も上位です。素晴らしい！

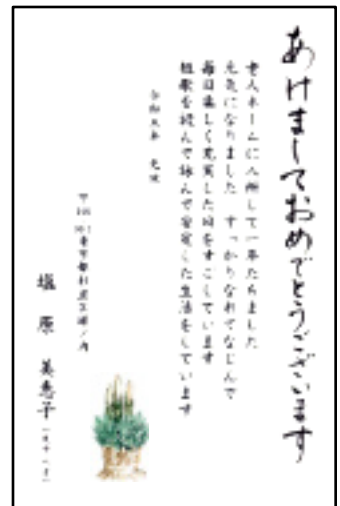
東京新聞の投書欄「若者の声」にも、小学生から三十代青年の前向きで力強い発言があり、励まされます。希望です。

貴方様にとって今年が「新しい躍進の年」になりますよう！

私もコロナに負けずにもう少し生きます。

二〇二一年一月

*長谷川さんの年賀状から転記しました。係



日章旗 返還相次ぐ NHKニュースウォッチ9 (10/20) より

「憎しみ」から「ゆるし」へ 過去をのりこえる

矢内 一弘 (元松溪中)

太平洋戦争中、敗残兵の日本軍人の持っていた武運長久と書いた日章旗が米兵により奪い取られました。その日章旗が今1年間に120枚も遺族に返還されていると言います。(米国にあるNPO OBONソサエティーより)

米兵の戦利品である日章旗は、仲間を殺された憎しみの象徴であり、戦中の捕虜生活での虐待や強制労働から、日本への恨みとして忘れることのできないものでした。しかしその当事者である米兵も、戦後75年が経ちこの世を去り、残された日章旗の遺品を見つけた遺族は、どうしたものかとNPOに相談が寄せられたと言います。

そこで気づいたことは、父親の遺品の向こうに日本兵遺族がいるということでした。日本への憎しみを永遠に持ち続けることはできないし、この憎しみは自分自身を傷つけているのではないかと思うようになったと言います。それならば、日本人遺族に返還した方が良いのではと考えるようになったそうです。

日本兵遺族の中には遺骨や遺品も返らず、返還された日章旗を見て初めて戦死した父親の存在を実感したという人もいます。

日章旗返還は、戦争のもたらした悲惨さ惨禍を象徴するできごとだと思いました。戦争に勝者も敗者もないことを、あらためて考えさせられています。

これは戦後75年経った今だからできたのです。過去を乗り越え、憎しみが消えて許し合うことが可能になるには、時間が必要なのです。そこには互いの歴史認識の違いを認め合うことが、平和・友情・和解を考えるきっかけになるということです。これが人間の智慧じゃないですか。

◎このNHKのニュースは、他に取り上げられていないのですが、75年という



時間が戦争の憎しみを許しに変えていけるのだという、人間の智慧・力を示すものだと思いました。

やうち かずひろ



田中恵子さん(元済美小)からの

師走のたより・・・



早いものでもう師走。コロナ、コロナで明け暮れて今年もあと一ヶ月となりました。退教だよりをありがたうございます。お世話になった皆様の顔を思い浮かべながら読んでいます。

また、今回は平和パンフも送ってください、ありがとうございます。長年続けてきた平和活動の重みを感じています。そして来年は、核兵器禁止条約が発効する時で、タイムリーな取り組みだったなあ……と、感心するばかりです。コロナでいろいろな催しが中止になる中、すごいなあ……と思いました。内容も豊かで深みがあり、素晴らしいと思いました。署名とすししばかりのカンパを同封させていただきました。

コロナ第3波がひどいです。どうぞ皆様、お体お大事に、お元気で、良い年をお迎えください。 20、12、5

謹賀新年 金丸 和彦(元八成小)

為政者の民に向き合う本気度を

籠もり居に妻と始めし朝散歩
コロナは測るリトマス試験紙

野花摘み来て春を楽しむ
年の瀬の重たき空の彼方には
帰れぬ故郷の忘れぬ山



年越し川柳 高木 たかし(元高井戸東小)

橋渡し掛け声だけでは架けられぬ
向こう岸からではできぬ橋渡し
橋渡し仕事せぬうち橋できた
核無くす橋できたのに渡らぬか
百八つコロナの除夜を一つ足し
初夢は一富士二鷹 散コロナ



GOTOは入浴剤で温泉めぐり・昨日山代今日草津・眼閉じれば湯治場で・湯から上がれば缶ビール・今日も一日無事でした

*これはふざけすぎでした。ごめんなさい。

こんな時に高齢者医療費負担なぜ倍増

政府・与党は臨時国会が閉会するなか、75歳以上の医療費窓口負担を単身世帯で年金収入200万円以上を対象に現行1割から2割に引き上げる方針を決め、菅義偉首相を座長とする全世代型社会保障検討会議はこの方針を最終報告としてまとめました。

約370万人の高齢者の窓口負担が一気に2倍となるのです。今でさえ、医療費の窓口負担が心配で受診を控え、その結果、重篤な病気や手遅れになってしまうという例が後を絶たないのが現状です。なかには2カ月に一回の年金支給日を待って薬をもらうためだけにクリニックに足を運ぶ人もいます。

安倍政権下の8年で公的年金は6.4%も削減され、コロナ禍のもとで最も重症化しやすい高齢者は慎重なうえにも慎重な行動をとりながらも不安な日々を過ごしています。

全国の年金者は、高齢者に対する経済的な虐待ともいえるべきこのような仕打ちは断じて容認することはできません。

政府は、口をひらけば2割負担の導入は「現役世代の負担軽減のため」と言い訳していますが、これはまったくの詭弁です。もともと後期高齢者医療制度の導入時は、高齢者の医療費の45%が国庫負担であったものを35%に引き下げ、それを現役世代に肩代わり（共助）させるとともに高齢者自身の負担に転換する仕掛け（自助）を

つくったのです。こうしたちぐはぐな矛盾を解決するには国庫負担（公助）を引き上げ、元に戻すことが唯一の解決策です。

だいたい医者にかかるのにその都度「窓口負担」が必要なのか。社会保険は保険料を労働者本人と雇用主が払い、国の負担も入っています。一部負担は費用の二重払いではないでしょうか。

現役世代の3割負担自体が問題であり、公費負担を増やすことこそ必要ではないでしょうか。

政府与党は、75歳以上医療費2割負担の実施時期については次の参院選後、22年度後半からとすることで合意したといます。国民世論を恐れる党利党略と言うべき姑息な手法です。

政府は、来年の通常国会に関連法案を提出しようとしています。全国の高齢者が団結し、現役世代とも手をつないで、政府・与党のたくらみを打ち破るために全力を尽くそうではありませんか。（年金者組合資料より）



医療負担倍増反対

厚労省前での抗議行動